

令和5年度

鴨島東中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

自ら学びたくなるような魅力ある授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 山城 雄児	委員 校長 川真田宏 教頭 西村 広志 教務 三木章規 指導教諭 着藤文恵 特別支援コーディネーター 山下 幸
------------------	--

校長
川真田 宏

【小中連携または中高連携における共通の取組】

主体的・対話的に学び合う学習の中で粘り強く持続的に取り組む態度を養う

【各校の取組状況の把握について】

相互の授業参観の他、共通のアンケート等を実施する

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に取り組み、期限内に提出できる。 ○範囲の限られた小テストや定期テストに好成績を残している。 ●学力の二極化が見られ、苦手を克服できず、学習意欲が低下する生徒もいる。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけ、それを使ってより発展的な内容に挑戦できる。 ②授業の目標やねらいを理解し、到達度を確認できている。	①ICT機器の活用、発問や板書の工夫等により、わかりやすい授業をする。 ②授業の目標を必ず提示し、今何を学んでいるのか意識できるようにする。 ③ICT機器等を活用して、学習の振り返り(R80)を実施し、その振り返りから授業改善を図る。	振り返りにおいて、記述を行う際は、『何がわかった』『何がわからなかった』『どこで間違った』など具体的に振り返られるよう指導し、また振り返りの共有を図る。	・ICT機器の使用に関する研修を実施し、授業で活用する場面が増えた。 ・振り返りを書くことが習慣化し、到達度を確認できたほか、前時の復習もスムーズになった。	書き方の指導だけでなく、ICT機器等を活用しながら、振り返りを全体に共有することで、振り返りの質を向上させる。同時に振り返りを活用した授業改善も一層、進める必要がある。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友だちの意見をしっかり聞いたりできる生徒が多い。 ●課題に応じて、複数の資料から必要な情報をまとめる力が弱い。 ●語彙が少なく長い文章の読み取りが苦手である。また、自分の考えを適切な言葉で表現する力が弱い。	①複数の資料から課題に必要な情報を選び、順序立ててまとめることができる。 ②他者と自分の考えを比べて、よりよい意見を提案したり、説明したりすることができる。 ③読書を通して、語彙を増やすことができる。	①課題に対して様々な資料を用意する。 ②授業において、ペアやグループ活動等を利用して、自らの考えをアウトプットする場面を設定する。 ③ICT機器を活用して生徒の思考の共有化を図る。 ④朝の読書の時間に新聞を活用する等様々な表現に触れる機会を設ける。	情報を読み取る部分に課題が見られるため、国語力向上タスクフォースの提案を参考に、情報を的確に読み取る手立てを行う。	・教科書やプリントを見返したり、周囲の生徒の取り組みを参考に考えようとする生徒が増えた。 ・校内研修等を通じて、生徒の粘り強さを引き出す学習活動や手法の共有が進んだ。 ・長文読解の際、線を引く、ポイントをつかもうとする生徒が増える等、読み取りの手立てが習慣化しつつある。	共有できた学習活動や手法を参考にしながら、生徒の粘り強さを引き出すような課題の設定と発問について、研究・共有を進める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自主勉強ノートは具体例を示すと、取り組むことができる。 ●与えられた課題はきちんと取り組むが、それだけで留まる生徒も多い。 ●自分のよいところを、言葉にできない生徒が多い。	①授業開始前に準備が整い、チャイム前に着席ができています。 ②習熟の程度に応じて、自分にできることを考え、粘り強く課題に取り組むことができる。 ③自分の力を信じて、試行錯誤し、自分に合った勉強法を見つけ、主体的に学習に取り組むことができる。	①2分前着席を徹底し、落ち着いて授業を開始する。 ②生徒の習熟に合わせて、個別最適化した学習を図る。 ③具体的にポジティブな声かけをし、PBSの取組により、目指す生徒像とその方策を生徒と共有する。	①各学級で増やしたい行動目標を設定し、その行動を生徒が『したい』『できるかも』と思える仕掛けを設定する。 ②『解きたい』『考えてみたい』と思えるような課題の導入や設定を行う。	・PBSの取り組み『東中生きらきらプロジェクト』と連携し、2分前着席が達成できた。 ・ICT機器等を利用して、生徒それぞれの習熟に合わせた学習について研究を進めることができた。	次年度もSW-PBSの取組を継続していく。行動目標を生徒専門委員会と一緒に考える等、学校がより一体となって進める必要がある。

令和5年度 学力向上ロードマップ

